

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 29 年 6 月 16 日		
留 学 先 大 学	南洋工科大学 (国名：シンガポール)			
所 属 学 部 ・ 学 科 等 名	スポーツサイエンス&マネジメント			
在 籍 身 分	学部生			
留 学 期 間	平成 28 年 8 月 3 日 ~ 平成 29 年 4 月 14 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類：学生ビザ			
	ビザ申請先：ICA			
	取得方法, 提出書類：渡航前に ICA のページから必要情報を入力、渡航後、留学生のために ICA 職員が学校に来て、手続きをしてくれる。			
	手続きに要した日数：1 か月			
そ の 他 必 要 な 事 前 手 続 き				
出 国 年 月 日	平成 28 年 8 月 1 日			
経 路	羽田→クアラルンプール→シンガポール			
現 地 で の 出 迎 え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	授業が始まってからの二週間くらいはあちこちでオリエンテーションがある。授業の説明など学校が主催するものから、シンガポール観光、部活の勧誘、寮の歓迎会など。			
帰 国 年 月 日	平成 29 年 4 月 12 日			
経 路	シンガポール→香港→広島			
2. 留学経費について				
所 要 経 費	総額	150 万	円	
	内 訳	渡航費	10 万	円
		保険料	15 万	円
		教科書代(学費)	2 千 (広島大学に 50 万)	円
		宿舍費	3 万×9 ヶ月	円
		食費 + 料理器具	50 万	円
		その他 (交通 費)	4 万	円
		(娯楽・旅行費)	50 万	円
(エアコン)	1 万	円		

3. 授業について	
2016年 1 学期	8月 3日 ~ 12月 2日
年 2 学期	1月 9日 ~ 5月 12日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プロ グラム等)	基本1コース3時間で、2時間の講義と1時間のチュートリアルが多い。
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へ のアドバイス	留学生は一つのセメスターで3, 4コースが平均。人気の授業は色々な日程で開かれている ので自分の都合で決める
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (1人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり (現地通貨) 約 3万 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に 関するアドバイス	Wi-Fi, 冷蔵庫はないのでルームメイトとシェアで購入した。メルカリのようなりサイクルアプ リがあるので活用するとよい。台所も料理器具はないので自炊する場合、現地調達が必要
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 15万 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回 数, 費用, 受けた医療機 関名	

日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	学内の病院で十分。広島大学と比べ、お金がかかるのと待ち時間が長い、大学の中にあるにしては立派な病院だった	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	食堂のご飯で食中毒になった友人が何人かいた、味がおかしいと思ったらすぐにやめたほうがいい。どの料理にも油が大量に使われていて、野菜が少なく炭水化物ばかりなので風邪を引いたときのために日本食を持っていくと安心。水は飲む。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
特になし		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 30 年 9 月 (当初の卒業予定年月 平成 30 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input checked="" type="checkbox"/> その他 (具体的に 3年次で休学したため)	
現在の状況および今後の予定・進路等	授業にでて、単位を取っている。中途採用をメインに就職活動し、思うようにいかなかった場合再度休学、一年遅れで新卒で就活	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	特になし	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		

学習の概要に関するレポート

学習面

私は南陽工科大学（以下 NTU）のスポーツサイエンス&マネジメント部に学部生として留学し、コミュニケーションの授業と自分の専門分野であるスポーツの授業を受講した。

授業の形態は、1 コース 3 時間の授業が基本で、1 時間レクチャー、2 時間チュートリアルもしくはその逆がほとんどだった。中には3 時間通しの授業もあったが、クォーター制の時間割感覚と同じである。レクチャーは受講生全員で受けるが、チュートリアルは時間帯で 20 人程度に分けられていた。この時間帯は履修登録の際に選択可能なので早めに選択しておく方が良い、比較的生徒は、昼、夕方に入れたがる傾向にある。これはほとんどの生徒が夜型の生活であり、深夜の 2 時過ぎまではあちこちの電気が付き集まって勉強している。グループ課題が出た際、深夜からスカイプでディスカッションをすることも。履修単位数は私の周りの留学生の平均で 3、4 授業、ローカルの生徒は 6、7 授業とっている生徒もいた。一つの授業の予習復習、課題が重いので日本と同じように考えない方がいい。

英語に関しては正直、留学当初にとっても困った。シングリッシュと呼ばれる特有の訛りが強く、他国からの留学生も苦労しているようだった。授業は録音し、分からない部分を友人に聞いてもらうこともあった。だが、重要な部分は何の授業でもビジュアル化されており、復習をすれば十分ついていけた。課題はレポートとプレゼンテーションが主だった。私は 1 セメスターで **Scientific Communication** の授業を受講したが、ここでレポート、論文の書き方を習ったため、その後に大変役に立った。英語で不安なところがあればライティングセンターがあるらしく添削をしてもらえると聞いたが、予約に一度足を運ぶ必要があることと、一回の時間が限られることから私は友人に添削を頼んでいた。現地では日本語の授業が抽選倍率 50 倍に近いものもあるくらい人気であるので日本語を教える代わりに添削をもらう言語交換も可能だろう。

試験期間は 2 週間近く取られ、試験は体育館など広いところで行われる。座席はあらかじめネットで確認できるので早めに確認しておくこと。

ローカルの生徒との温度差

ローカルの生徒はとにかく勉強重視で土日も勉強している人が多い。授業が終わり次第友人で集まって勉強をするというのが基本。その為、勉強だけでなく観光も楽しみたい留学生とは温度差がでがち。彼らは学校の成績がそのまま就職に結びつくため必死、グループ課題に関しても留学生とは組みたくないと思える人もいる。私はほとんどのクラスで唯一の留学生だったので、はじめはグループが作れず苦労した。彼らの仕上げるレポートは予想を超える中身と量だった。友人関係を円滑に進めるためにもグループの課題は早めに取り掛かることを勧める。

単位交換

私は 3 年次での留学だったため単位交換を希望していたがほとんど交換できなかった。同じスポーツの分野でも、シンガポールはスポーツの歴史が浅いことで交換不可だった。また、留学生に開かれていない授業でも教授に交渉し受講することはできたが、単位は出さないと成績には不可が付いた。その分課題や試験は免除してもらった。私の経験からは、単位交換はほとんどできないと考えたほうがよい。単位交換に縛られて履修をするよりも、自分の興味がある分野、授業を受講するほうが充実するだろう。

生活の概要に関するレポート

生活面

私は NTU の寮に住んでいた。学内には無料のキャンパスバスが走っており、バスの到着時間もアプリで確認できたので便利だった。週末は最寄り駅まで無料のバスが出ていた。

寮に住むメリット

なによりも値段が安かった。ひと月 3 万前後が平均だが、抽選に漏れて学外でホームステイをしていた友人はひと月に 6 万近くかかっていたという。シンガポールは土地が狭いため、宿代はとても高額だった。次に寮のクラブに入れるメリットがある。全部で 18 近くの Hall があり、毎年 Hall 対抗の大会が開かれる。私はバスケットとスイミングクラブに入っていたが、文科系のクラブもある。勿論 Hall のクラブとは別に部活もあるが、部活は本気度が高い。

休日

上記にも挙げた通り、ローカルの生徒は土日にも勉強する、ほとんどの生徒は週末には実家に帰るため週末の寮は留学生のみとなることがほとんどだった。なので、週末にはローカルの生徒と遊びに出るというのは難しかった。留学生は留学生同士で集まり土日に出かけることがほとんど。シンガポールはとても狭く、国内の観光先はすぐに尽きるが、隣接したマレーシアや、周りの島に行くこともできる。学期の途中に 1 週間の Recess Week があり、授業はないが、ローカルの生徒は勉強をする期間、この前後に中間試験があることも多い。この時期にほとんどの留学生は旅行に行く。シンガポールは周りに多くの国があり、どこでも気軽に旅行ができる。ちなみに留学生一番人気の旅行先はバリ島で、後期の Recess Week だと雨季にあたるので前期のうちにサーフィンに行くのがお勧め。

正直、留学先ではローカルの友人を沢山つくりシンガポールを深く知りたと思っていたが、彼らの第一優先は学業で思うように交友を深めることができなかつたことが残念。勿論その中でもローカルの友人はできたし、何より様々な国の人と関わる事ができた。私は留学時に英語に自信がなかつたために、日本人と関わるのを避けていた。日本人のグループには一度も顔を出したことがない。賛否両論あるだろうが、私はそれでよかったと思う。私のレベルではきっと甘えてしまっていたらと思う。恥ずかしながら応募当時の私は TOEFL61 点という足切りちょうどの点数しかなかった為、書類の提出や説明会等重要な場面で不安は沢山あった。しかし、こんな私でもどうにかすべてクリアし、無事に留学を終えることができた。勿論、留学前にしっかり準備をしていくことは大切だが、英語に自信がないから留学できない、無駄だということはない。全員とうまくコミュニケーションが取れなくても、色々なことにチャレンジし、全力で取り組んでいけば必ず分かってくれる人が現れると思う。私も、喧嘩ができ、しんどい時に支えてくれる大切な友人ができた。大切なことは言語ではない。英語に困らなくなってからは自然と日本人とも関わるようになり、さらに充実した生活を送ることができた。こんな点数でも諦めずに HUSA に応募して留学できて本当によかったと思う。また、私は留学のために休学して資金を貯めた為、卒業が遅れることになるが後悔はない。言語以上に大切なことを沢山学び、卒業が遅れたとしてもそれだけの価値がある経験をする事ができた。留学をしたいが迷っている人がいるとすれば、声を大にして言いたい、行けるチャンスがあるなら行くべきだ。世界の同じ年代の子と大学に通う経験は 2 度とできない。就職する前に自分のアイデンティティを見つめなおせるいいチャンスだと思う。本レポートで英語に対する不安から留学をためらう人の背中を押せたら嬉しく思う。

